

Merry Christmas !!

17世紀オランダの画家ヘラルト・ファン・ホントホルストによる作品（1622年）



祖母の家の馬小屋

京丹ブロック担当司祭

モンテロ・ガルシア・ホルヘ神父

私が子供の頃、クリスマスは一年で一番好きな時期でした。

その理由の一つは、家族と一緒に祖母の家に集まり、一緒にイエスの馬小屋を作るからでした。

12月の初めに祖母の家に集まり2日間ほどかけて一緒に馬小屋を作りました。

メキシコでは馬小屋は、教会だけでなく、ほぼすべてのキリスト教徒の家庭でも作られています。しかし、祖母の家で作った馬小屋は特別でした。家の中にたくさんのクリスマスのイルミネーションがあったからです。お母さんと一緒に、自宅でも馬小屋を作りましたが、祖母の家の馬小屋に比べると小さかったです。

祖母の家の馬小屋は、松の木に生えている草できていました。

草の上には、馬小屋のさまざまなキャラクターを配置しました。

たとえば、上の部分にヨセフとマリア、周りに天使、イエスを囲む動物と三博士などです。実は馬小屋に入るキャラクターが多かったので、かなり時間がかかりました。馬小屋に最後に入れたキャラクターがイエスで、クリスマスの日の真夜中に馬小屋に入れて、集大成でした。

クリスマスの夜はみんなで教会に行き、教会でクリスマスを祝い、祖母の家に帰ってから、みんなで夕食をとり、真夜中に赤ん坊のイエスを馬小屋に入れ、イエスの誕生を象徴しました。



馬小屋と一緒に作ることはとても有意義で、クリスマスを中心と本当の意味を思い出させてくれました。つまり、イエスの誕生、神の子の誕生、それがクリスマスの本当の意味です。

当時、私の家や私の町には、すべての家族と同じように、問題があり、困難があり、貧困があり、病気がありました。しかし、馬小屋と一緒に作ることで、私たちの人生の中心は神であり、神は私の希望であり力であることを思い出すことが出来ました。

私たちが信じている神、イエス様が私たちに明らかになされた神は、私たちと共におられる神であり、私たちの救いのために人間になられました。

ここ日本では馬小屋は教会にしか建てられず、キリスト教徒の家に馬小屋を作る習慣はありませんが、大丈夫だと思います。しかし、子供の頃、家に馬小屋を建てたときの思い出には、いつも懐かしさと同時に喜びを覚えています。なぜなら、



クリスマス
スの起源
は、イエ
スの誕生
であり、
それは人
類の歴史
における



写真はホールへ神父様
所有のお写真

神の子の化身であり、私たち一人一人のために人間となられた神の誕生であることを、思い出させるからです。

私たちが祝おうとしているこのクリスマスに、イエスが本当に私たちの心の中で生まれ、神の子の誕生の喜びが、私たちの生活と私たちの家族の、それぞれの人生を啓発するように、皆さんと一緒に、神に祈りましょう。

皆さん、クリスマス



おめでとうございます!!

ようこそ **エミリオ神父様**

エミリオ・フォルトゥール師



2022年10月1日付
京都南部地区協力司祭
グアダルペ宣教会

皆さん、覚えておられますか？

エミリオ神父様を。

最初にご紹介された時のことを。それは、今年のご復活祭の主日のミサの時です。

この日はカマチヨ神父様が東京に赴任される前の最後のミサの時でした。お二人で司式をされた後、ミサの最後のご挨拶の時にカマチヨ神父様がエミリオ神父様を私たちに紹介して下さいました。

そして、教区の辞令が下りてからホールへ神父様に改めてご紹介していただきました。ホールへ神父様は紹介の時に『新たな司牧者とともに、信仰の祈りのうちに、神の国の完成を目指して、さらなる福音宣教に励みましょう』と仰いました。エミリオ神父様の日本語はとても流暢です。私たちとの会話には何の問題もありません。これから宜しくお願い致します。



桂教会のごミサの後の
エミリオ神父様 (11/6)

